

チェーンドラッグストア業界における
地球温暖化対策の取組
～カーボンニュートラル行動計画2022年度実績報告～

2024年2月

一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会

目次

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項
1. チェーンドラッグストア業の概要
2. チェーンドラッグストア業界の
「カーボンニュートラル行動計画」フェーズⅡ
3. 2022年度の実績
4. その他の取組

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項

- 昨年度フォローアップWGにおける進捗評価
 - 主なコメント・指摘事項
 - 課題
- 指摘を踏まえた今年度の改善・追加等
 - 検討結果等
 - これまで委員から要望されていた本部事務所の数値に関して会員企業に協力を依頼し、可能な範囲での集計を実施した

1. チェーンドラッグストア業の概要

- 主な事業
 - 店舗規模に関係なく、医薬品・化粧品・日用雑貨・家庭用品、食品などを取り扱う小売店舗
- 業界の規模
 - 企業数：381社
(3,000店舗超の大企業から数店舗までの中小企業まで多様な企業が存在)
 - 市場規模：約8兆7,134億円
- 業界の現状
 - セルフメディケーション推進への対応、地域包括ケアシステム、健康サポート薬局への対応を含め、他業態やネット販売業との競合・競争の激化等により業界再編が一層進むとみられる
 - 新たな成長戦略、ドラッグストアの役割を検討しており、業界として10兆円産業化をめざしている

2. チェーンドラッグストア業界の「カーボンニュートラル行動計画」フェーズⅡ

- 2030年度目標
2021年10月策定
 - 目標指標：店舗におけるエネルギー消費原単位
(床面積・営業時間当たりの原油換算エネルギー消費量)
 - 目標年度(2030年度)において**2013年度比で34.2%削減**とする。
- 目標策定の背景
 - 食品の取り扱い拡充による冷蔵・冷凍・加温ショーケースの導入増
 - 他業態やネット販売業との競合・競争の激化等による業界再編
 - 店舗数（床面積）の増加
 - **エネルギー消費の増加傾向は長期的な継続が予想される**

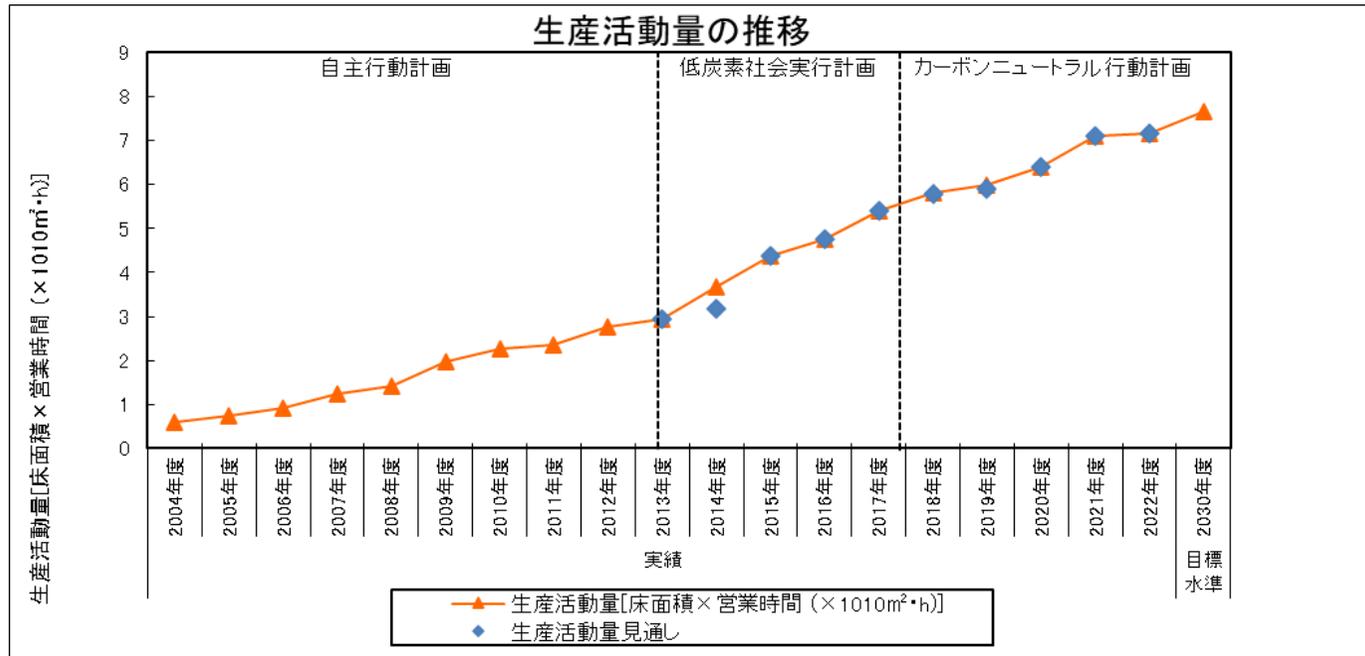
2. チェーンドラッグストア業界の「カーボンニュートラル行動計画」フェーズⅡ

- 前提条件
 - ドラッグストア業界における本部組織は店舗と比較して非常に小さなものであることから、**店舗における活動を対象**とする
- 目標水準設定の理由とその妥当性 等
 - エネルギー消費量の増加が長期的に見込まれる中で、CO2絶対量の削減を目標にすることは合理的ではないと判断
 - 小売業の生産指標として売上高なども検討されるが、ドラッグストア業界では取扱い商品の幅が広く、店舗面積も100㎡未満の店舗から2,000㎡を超える店舗まで非常に幅広く、1店舗あたりの売上高は大きく異なるため、合理的と言えない
 - 小売業界では消費電力は、照明機器、空調機器、冷蔵・冷凍機器から構成され、各社の経営努力の範囲でLED照明への切り替えやその他機器の入れ換えによる効率化が実施されている

3. 2022年度の取組実績（1）

- 2022年度の実績値

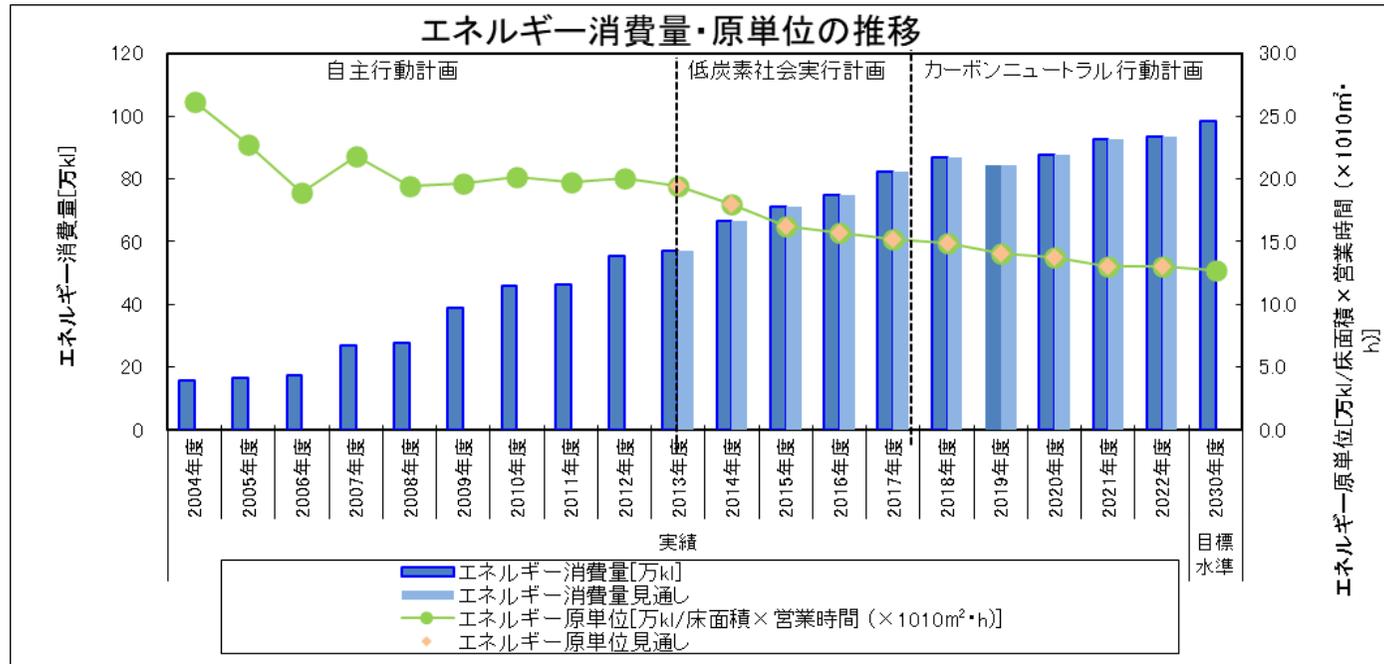
- 生産活動量： **7.18** （単位：床面積×営業時間（ $\times 10^{10} \text{m}^2 \cdot \text{h}$ ））
（基準年度比 **243.1%**、2021年度比 **100.8%**）



- 売上高ベースのカバー率は92.5%で90%以上を維持
- 生産活動量増大は落ち着き新規出店によるゆるやかなものに

3. 2022年度の取組実績（2）

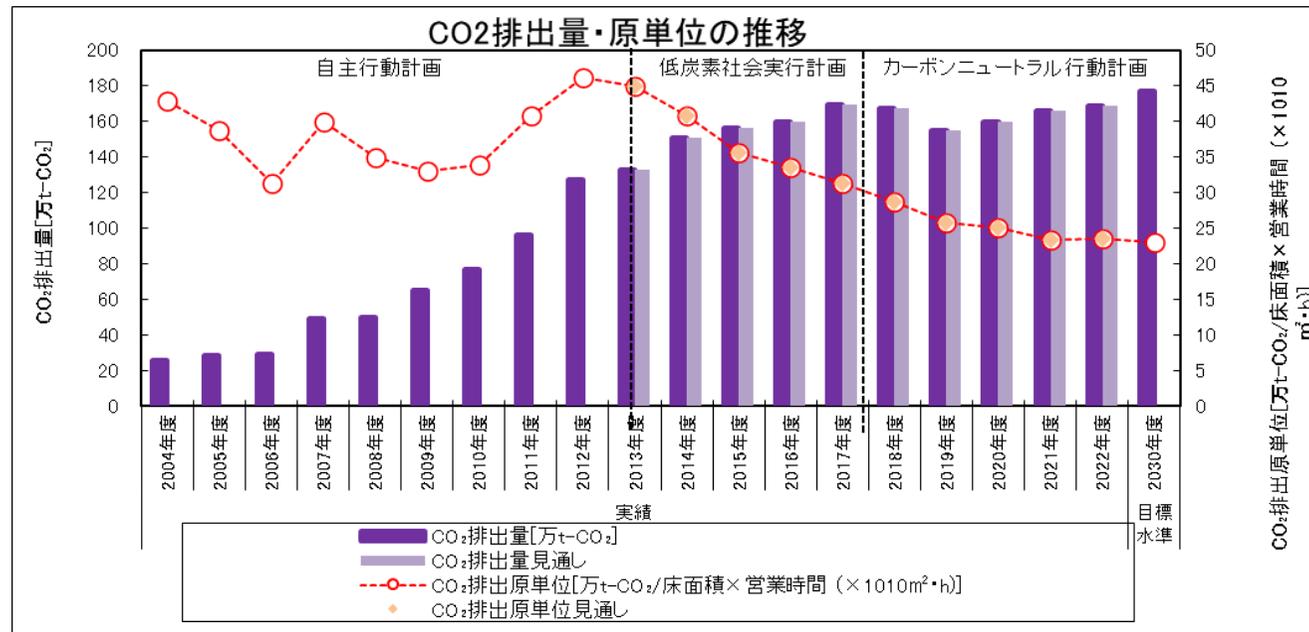
- 2022年度の実績値
 - エネルギー消費量： **93.5**（単位：万kl）
（基準年度比 **163.7%**、2021年度比 **101.0%**）
 - エネルギー原単位： **13.02**
（基準年度比 **67.1%**、2020年度比 **100.0%**）



原単位は前年より0.01ポイント悪化、今後の改善に足踏みの懸念も

3. 2022年度の取組実績 (3)

- 2022年度の実績値
 - CO₂排出量：**168.4** (単位：万t-CO₂)
(基準年度比 **127.1%**、2020年度比 **101.7%**)
 - CO₂原単位：**23.45**
(基準年度比 **52.2%**、2020年度比 **100.1%**)



電力排出係数：4.34→4.35の影響もあり、排出量、原単位ともに微増

3. 2022年度の取組実績（4）

- BAT、ベストプラクティスの導入推進状況

BAT・ベストプラクティス等		導入状況等	導入状況・普及に向けた課題
設備 関連	LED照明	49社 14,053店舗 98.5%	
	デマンド監視装置	16社 5,461店舗 38.3%	
	照明のセンサー制御	14社 3,598店舗 25.2%	
	再生可能エネルギー設備	8社 4,067店舗 28.5%	実際の導入にちては一部の店舗にとどまるとの回答
運用 関連	空調・換気フィルターの清掃	48社 13,601店舗 95.3%	
	空室・不在時等のこまめな消灯	41社 13,565店舗 95.0%	
	空調運転時間の適正化	37社 12,242店舗 85.8%	
	照度の適正化	27社 7,823店舗 54.8%	

3. 2022年度の取組実績（5）

- 2022年度の実績値
 - エネルギー原単位：**13.02**
（基準年度比 **67.1** %、2021年度比 **100.0** %）
- 進捗率
 - 2030年度目標：**95.8** %
- 目標達成に向けた今後の進捗率の見通し・課題
 - 過去5回の平均削減ポイント**-0.55**に対し、今回は0.01ポイント増
→目標に到達するためには今後**0.035ポイント減少の継続**が必要
 - 次回の結果次第では目標の見直しの検討も考慮

4. その他取組（1）

- 業務部門での取組
 - 目標：業界としての目標は未設定
 - ドラッグストア業界においては本部オフィスの比率は極めて小さいため
 - 各社において、エアコンの温度調整、昼休みのP Cや照明の消灯などの対応がなされている報告を確認
 - 15社集計結果
 - 生産活動量：0.0691、エネルギー消費量：1.5 万kl
 - CO2排出量（基礎排出係数）2.7万t-CO₂
 - エネルギー原単位（原油換算） **21.53** > **13.02 全体値**
 - CO2原単位（基礎排出係数）38.744
- 運輸部門での取組
 - 目標：業界としての目標は未設定
 - 自社で物流部門を持っているところのごく一部に限定されるため